

各 位

会社名 株式会社 栄 電 子
代表者名 代表取締役社長 津田 百子
(東証スタンダード・コード7567)
問合せ先
役職・氏名 取締役 大久保雅文
電話 03-6385-7240

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

当社は2024年2月8日開催の取締役会において、持続的な成長と中長期的な企業価値向上を図るために、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について、当社の現状分析・評価及び取り組み方針を下記のとおり決議いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 現状分析・評価

- ・当社グループの2023年3月期のROEは17.0%、ROICは14.3%であり、資本コスト（株主資本コスト約8%、WACC約7%と推計）を上回っています。
しかしながら、半導体不足による市場在庫需要の増加により業績が好調であった2021年度、2022年度を除くといずれも平均して2~4%台で推移しており、安定して資本コストを上回る収益を確保できておりません。
- ・PBRは直近5ヶ年で1倍割れの状況が継続、足下では0.5倍程度で推移しており、1株当たり純資産の増加に対し、株価は伸び悩み、割安であると言えます。
- ・PBR1倍割れの要因としては、持続的かつ安定的な収益の確保が出来ていないこと、株主還元策や成長戦略等について十分な説明ができていないためと分析しています。

【連結経営指標等】

(百万円)

	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
売上高	5,929	5,452	5,623	9,007	10,839
営業利益	124	84	122	687	881
当期純利益	105	66	116	531	651
営業利益率	2.1%	1.5%	2.2%	7.6%	8.1%
ROIC	2.7%	1.9%	2.9%	13.6%	14.3%
ROE	3.7%	2.3%	4.0%	16.3%	17.0%
配当性向	33.81	53.39	30.47	6.69	9.36
1株当たり純資産 (円)	559.39	558.97	591.12	694.95	814.95
期末株価(円)	337	322	524	469	526
PBR(倍)	0.60	0.58	0.89	0.67	0.65

2. 取り組みの方針

現状分析・評価を踏まえ、資本コスト、資本収益性等を十分意識しながら、1) 収益力の向上、2) 資本効率の改善、3) IR活動の充実による「ROIC及びROE向上」に取り組み、その結果としての「PBR1倍以上の達成」を目指し、持続的な企業価値の向上に努めて参ります。

3. 改善の取り組み

ROI Cツリーの活用により 2027 年 3 月期（第 60 期）までにROI C及びROE 8%以上、営業利益率 5%以上を目標とした以下の取り組みを実施し、PBR1 倍以上の達成を目指します。

1) 収益力の向上

- ・**収益源の多様化**：既存事業の深耕と事業領域の拡大を通じた収益源の多様化に取り組み、市場環境に左右されない収益基盤を構築する。
- ・**コスト削減**：調達コストの削減、業務プロセスの見直し・効率化に取り組み、コスト削減と原価意識の定着を図る。
- ・**高付加価値商品及びサービスの提供**：人的資本投資により価値創造力の向上を図り、お客様の本質的な課題解決に繋がる高付加価値商品やサービスを提供する。

2) 資本効率の改善

- ・**棚卸資産の適正化**：滞留抑制、回転率向上による在庫の適正化を図る。
- ・**遊休資産の適正化**：遊休不動産の売却等整理を含む資本効率の適正化を図る。
- ・**資本効率を意識した利益還元**：財務の健全性や成長投資とのバランスを前提として、連結配当性向 20～30%を目安とする。あわせてDOE（連結株主資本配当率）1.0%を下限値の目途とし、中長期的にはDOE 2.0%以上を目標とする。

3) IR活動の充実

- ・**WEBサイトを活用した情報発信の充実化**：適時開示に基づく財務情報のほか、非財務情報、サステナビリティ活動等、当社の収益や事業活動に関する情報発信について順次充実化を図る。

以上

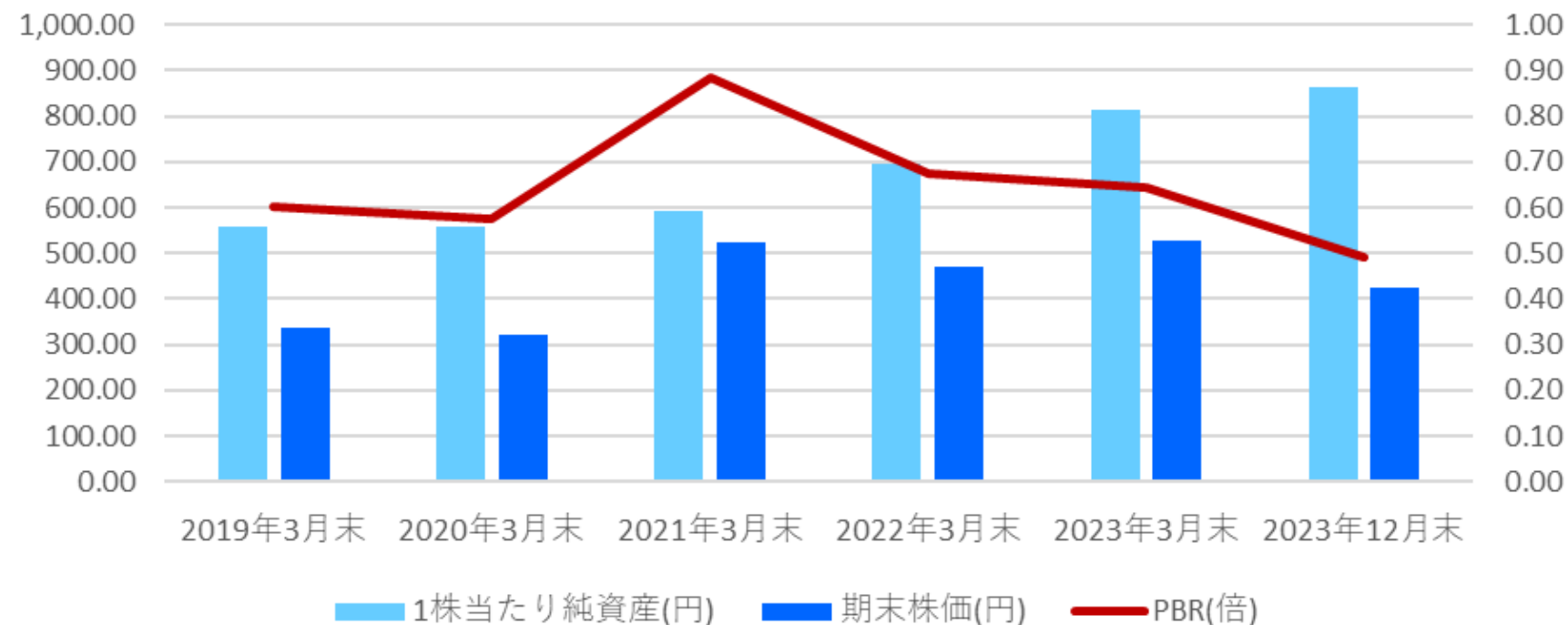
資本コストや株価を意識した 経営の実現に向けた対応について

2024年2月9日
株式会社栄電子

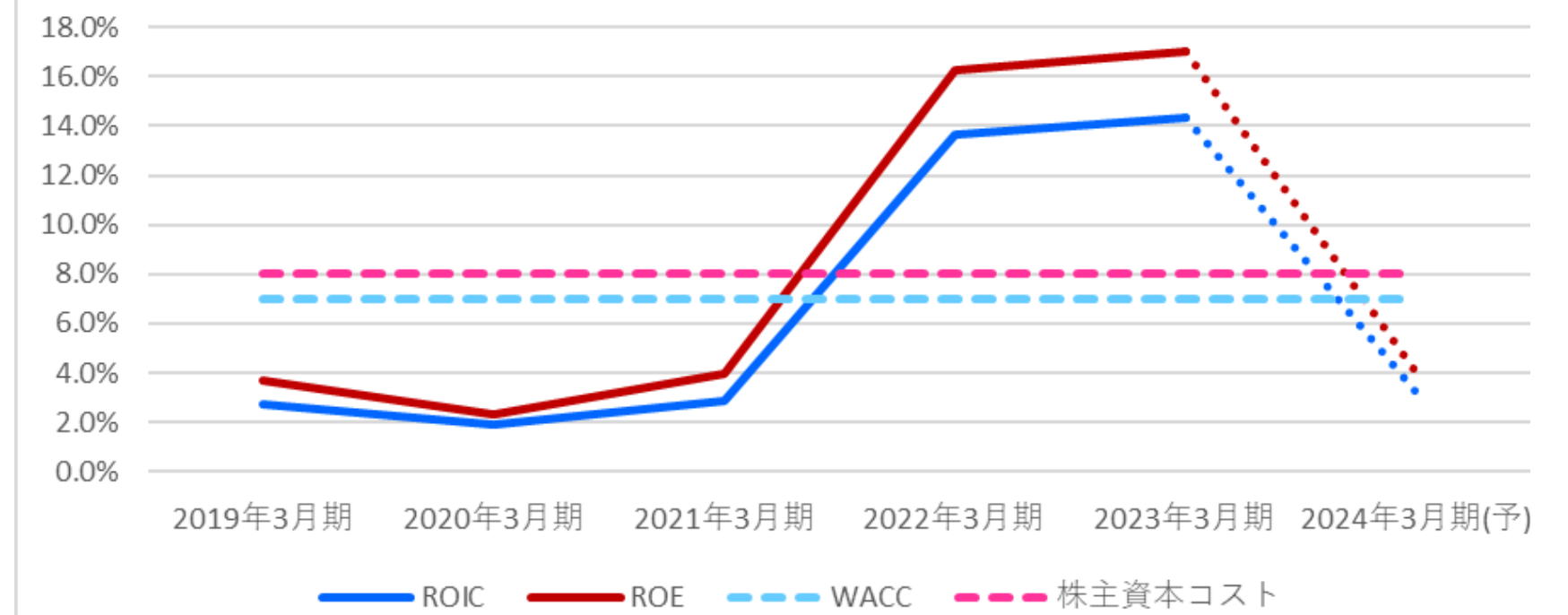
1.現状分析

- 当社グループの株主資本コストは約8%、WACCは約7%と推計。
- 半導体不足による市場在庫需要が大幅に増加した2021年度、2022年度を除くとROIC、ROEともに平均2~4%台で推移しており、安定して資本コストを上回る収益を確保できていない。
- 当社グループのPBRは直近5ヶ年で1倍割れの状況が継続、足下では0.5倍程度で推移。
1株当たり純資産の増加に対し、株価は伸び悩み、割安となっている。
- PBR 1倍割れの要因としては、持続的かつ安定的な収益の確保が出来ていないこと、株主還元策や成長戦略等について十分な説明ができていないためと分析。

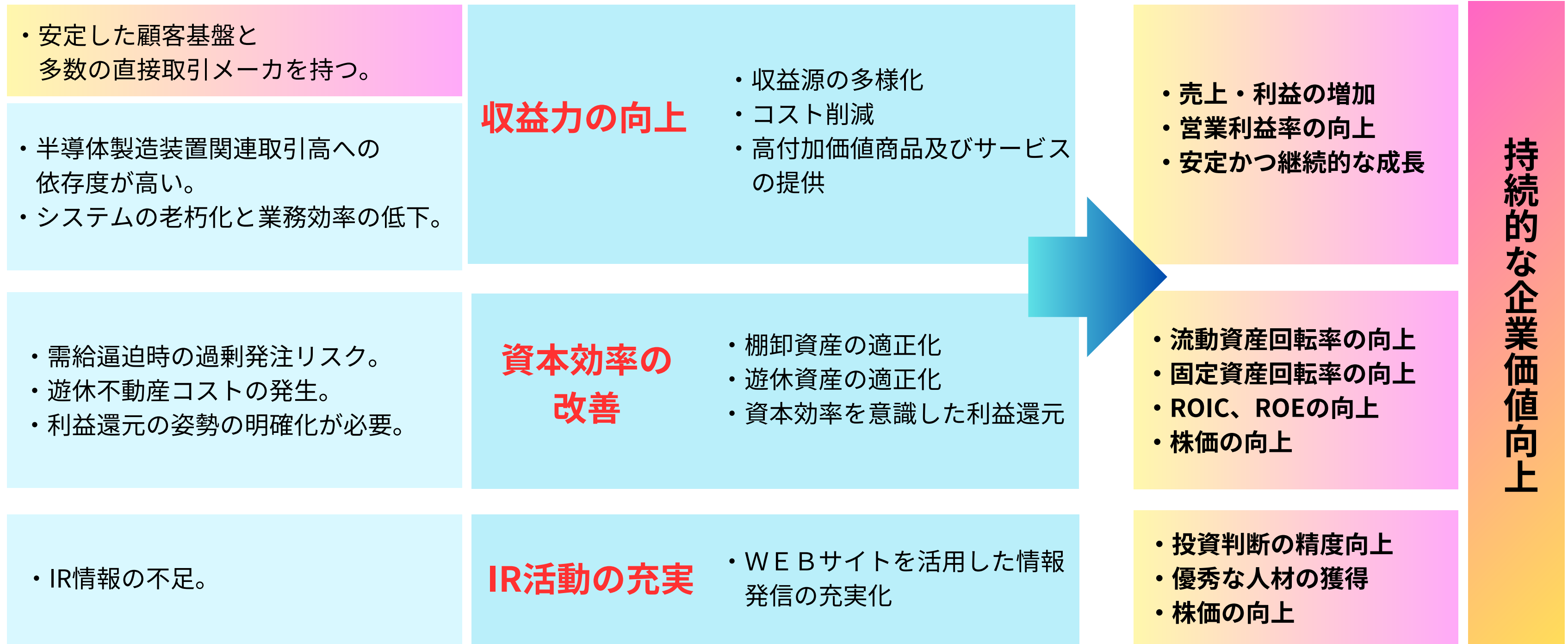
PBRの推移



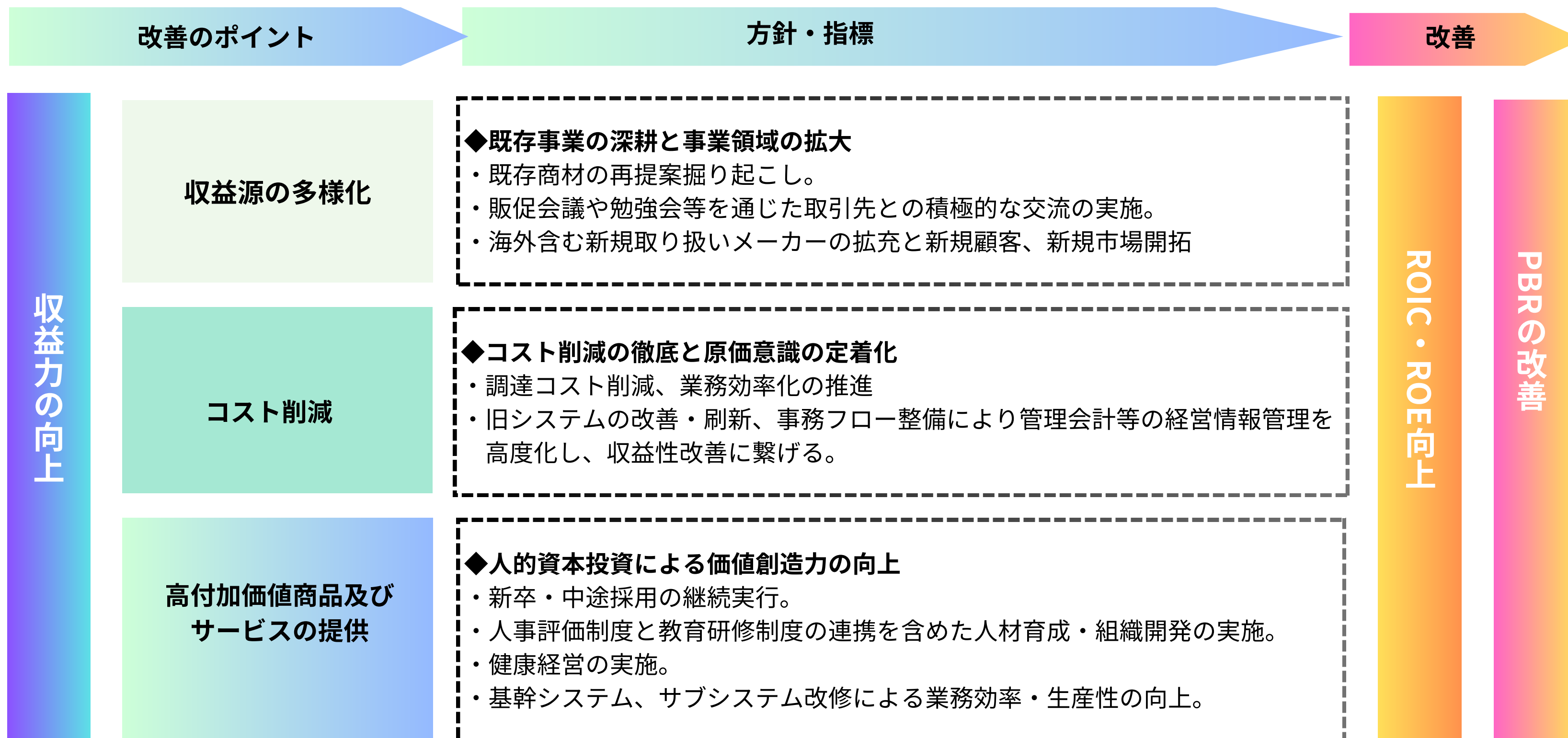
ROIC、ROEの状況



2. 取り組みの方針

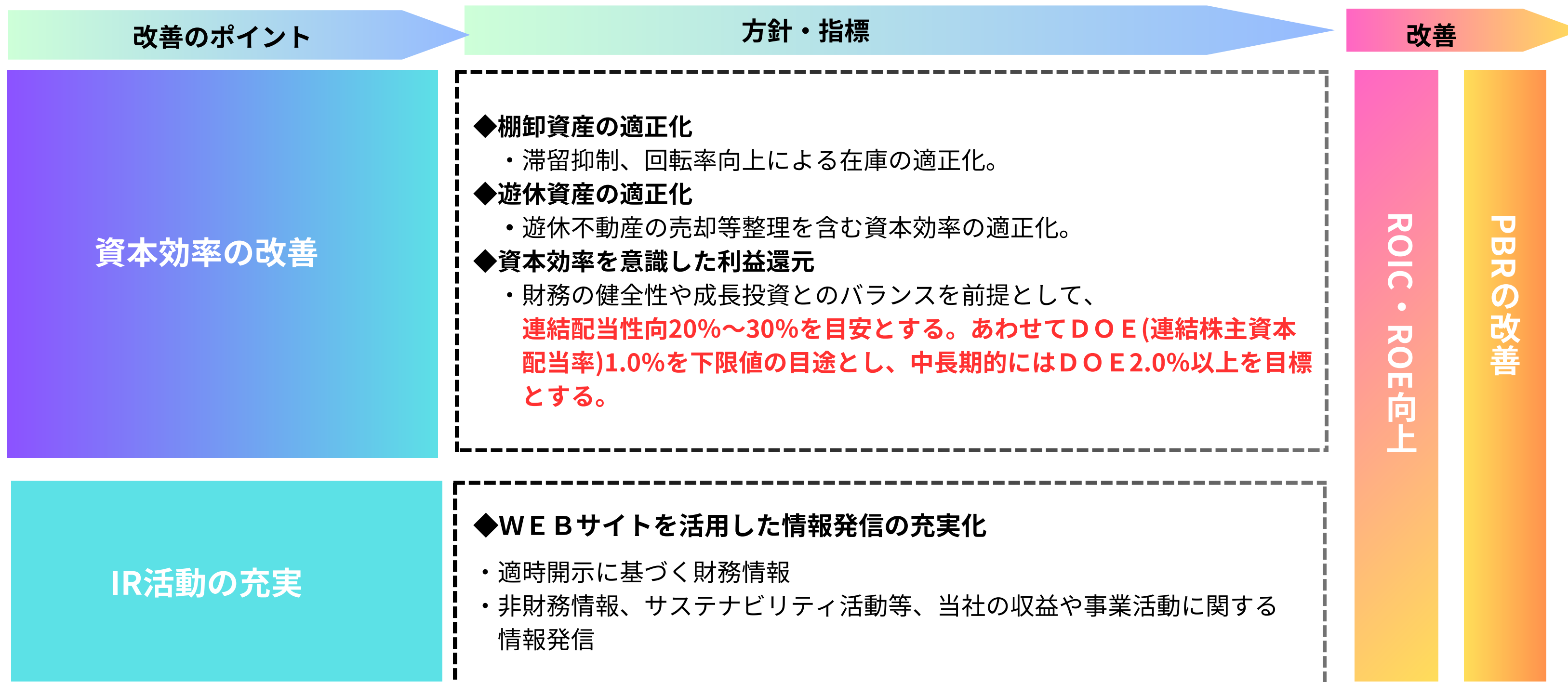


3.改善の取り組み(1)



収益力の向上

3.改善の取り組み(2)



※ROICツリーの活用により2027年3月期(第60期)までにROIC・ROE8%以上、営業利益率5%以上を目標とした上記の取り組みを実施し、PBR1倍以上の達成を目指す。